



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



2011-2012 年度

国際ロータリー会長 / カルヤン・パネルジー 会長 / 飯塚 詔夫 副会長 / 黒田 昌弘
2690地区ガバナー / 伊藤 文利 幹事 / 堀江 卓男 会計 / 槇野 良文

平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp

9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

例会プログラム

例会日	卓話者	演題
3月22日	小汀税理士事務所 所長 小汀 泰之 様	国譲り神話と鹿島神社
3月29日	18:30 ~ ホテルほり江	夜間例会
4月5日	6:30 ~ 愛宕山 山上	早朝例会

出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前回補正出席率
37	26	11(4)	78.79%	88.24 %

欠席者

原泰 / 園山 / 石原輝 / 原孝 / 来間 / 恒松 / 内田
(石原恵 / 山根 / 牧野 / 杉原邦)

来訪者

なし

メークアップ

3/15 高砂・伊藤・清原・大島卓・杉原邦・小村・園 (家庭集会)

3/16 加藤喜・河原・杉原朋(出雲南)

次回例会受付当番

(4月5日) 原 泰久 / 原 孝士 / 飯塚大幸

(4月12日) 清原正幸 / 石原輝男 / 石原恵行

近隣クラブ例会情報 (メークアップを考えましょう)

(出雲) (松江) 赤文字 例会変更

月	出雲中央	4/23	松江南
火	出雲	4/10	松江しんじ湖
水	大社	4/4	松江
木			松江東
金	出雲南	3/30(休)	

会長挨拶

箸について

南アジア、アフリカ、南米などの国では今でも手づかみで食事をする国は多くあると思いますが、野蛮とかではなくそれがその国に文化なのです。ヨーロッパでは昔より、スプーン、フォークで食べていたと思われがちですが、使われ始めたのは15世紀頃からで、高貴な方でも手づかみで食事をしていました。スプーン、フォークは手づかみの手をそのまま形に移した食器だそうです。

ところが日本の箸の歴史は古く「古事記」の中で出て来ています。

崇神天皇の中に、倭迹迹日百襲媛(ヤマトトヒモソヒメ)が大物主神の妻になったが、その大物主神が蛇である事を知って驚き、箸で陰をさして死んだという記述があるそうです。

この様に古くから日本では箸が使われてきました。

箸の持ち方は、箸の真ん中に指を一本入れ、箸が開いている状態です。

これはどんな小さなものでもさめるということです。

日本での箸の使い方、握り箸、突き箸、迷い箸、ねぶり箸等々、タブーとされている作法があります。

この様に日本人の“繊細”な心、おもてなしの心は大切に受け継いでいかなければならない作法ではないでしょうか。

そして、この古くからの日本人ならではの作法が自然に身についていたからこそ、東日本大震災時の秩序正しい行動がとれたのではないのでしょうか。

幹事報告

1. ロータリーレートの変更 4/1より 1ドル 82円 (現行 78円)

次年度幹事報告

次年度委員会構成の発表

スマイル

大島卓 (小汀先生、今日はスピーチありがとうございます。)

持田 (小汀様のご来場に感謝して。)

高砂 (小汀様スピーチよろしくお願ひします。間もなくの入会、楽しみにしています。)

黒田 (小汀先生ようこそ。早期の入会を楽しみにしております。)

遠藤 (先般うれい事がありました。最後の親のつとめが出来安心しました。)

恒松 (先日の私の祝賀会には多数の方々にご出席賜り誠にありがとうございました。本来ならば今日出席してお礼を申し上げねばなりません、新年度に備えて厚生労働省の指導説明会が全県下であり出席できませんのでスマイルで御礼と致します。)

スピーチ・例会行事

「国譲り神話と鹿島神社」 小汀税理士事務所 所長 小汀 泰之 様



私は神官の家に生まれ、村の鎮守「鹿島神社」の宮司であり、税理士でもあります。

今年還暦を迎え、再び生まれた辰の干支に立ち返った今、私の最大の関心事は、平成25年5月に行われる出雲大社の正遷宮です。まもなく本殿の覆いが取り払われ、新しくなった社殿が厳かに現れることになります。来たる遷宮に、「蘇り」の力をいただけるよう、心を清らかにして日々過ごしたいと念じています。

自分が奉仕している「鹿島神社」は、出雲大社との関係が大変深い社です。なぜなら、主祭神は「建御雷神(タケミカツチノカミ)」といい、天孫降臨の前段階、国譲りのときに高天原から天下った三人の神様の内の一人であり、出雲大社の大國主神と談判を行い、国譲りが成就された神様そのものであるからです。その辺は「古事記」「日本書紀」に記されています。また、江戸時代の「雲陽誌」には、当社の前身の小浜明神、鹿嶋明神のことが記され、武志の里の氏神として現在もよく崇敬されています。

斐伊川は、古来出雲第一の大河であった。出雲風土記によると、斐伊川の流れば昔、大社に流れていた。土地は豊かに肥えて穀物も豊富で、百姓の潤いの園であった。河の両側には郷が栄え、魚介類も豊富で、場所によっては田に適したり、畑に適したり、古くから人が集い豊かにくらしていたのです。